



巻 頭 言

静岡赤十字病院院長

行 木 英 生

2004 年は日本病院機能評価機構認定病院となり、ver. 4 の内容を維持し、さらに高い機能を実践していく第 1 年目の年として始まった。また 5 月からは、新しい初期臨床研修医制度にのっとり、11 人の臨床研修医が 2 年間の初期研修を始めた。さらに、検査部の中で遺伝子検査室が稼動開始となった。このような環境の変化の中にあって、当院の研究報は年々学術雑誌としての体裁を整えつつあり、2004 年版は検査部門からと研修医部門からの投稿が増えたこともあり、原著が 5 編、症例報告が 20 編あった。また学会報告記(12 編)や各種委員会の活動報告も紙面を賑わせている。さらに各領域での学会誌や医学雑誌への投稿あるいは学会発表の年間報告が、巻末に学会活動として医局を含む各部門から提示されているが、忙しい日々の診療の中からまとまったデータを臨床報告として対外的に発表していくのは大変な努力が必要である。諸兄のたゆまない努力と熱意を高く評価したい。

話は少し変わるが、2005 年 4 月からは個人情報保護法が発効となるので、2005 年版研究報では法律を遵守した編集に心がけねばならないし、著者は投稿に際して個人情報の保護に十分な配慮をしておく必要がある。

この研究報が多くの人々の眼を通して評価され、患者さんの病気の治療・健康の増進に少しでも役に立ってくれることを願うとともに、研究報 2004 年版の発行に当たっては、病院研究報編集委員会の各委員の努力と、実務担当の天野いづみさんの時間を惜しまない対応に心から感謝を申し上げる。

2004.12.31